



2014年11月11日

各 位

会 社 名 イオンフィナンシャルサービス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 山下 昭典  
(コード番号 8570 東証第一部)  
問合せ先 取締役 経営管理担当 若林 秀樹  
(TEL 03-5281-2057)

### 平成27年3月期 中間連結会計期間業績予想と実績の差異に関するお知らせ

平成26年5月15日の決算発表時に公表した、平成27年3月期中間連結会計期間（平成26年4月1日～平成26年9月30日）の連結業績予想と、本日公表の実績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 平成27年3月期 中間連結会計期間業績予想数値と実績値との差異

(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

(単位：百万円)

	経常収益	経常利益	中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想 (A)	145,000	19,000	8,000	38円75銭
実績値 (B)	151,164	19,477	10,987	54円63銭
増減額 (B-A)	6,164	477	2,897	—
増減率 (%)	4.3%	2.5%	37.3%	—
(参考) 前中間連結会計期間実績 (平成26年3月期中間期)	130,562	12,352	2,537	13円24銭

#### 2. 差異の生じた理由

当中間連結会計期間においては、継続してカード会員数及びイオン銀行口座数の増加に努め、連結の有効会員数は3,486万人（期首比96万人増）、口座数は396万口座（同28万口座増）と順調に顧客基盤を拡大いたしました。また、イオングループの営業ネットワークを活用したカード利用促進企画の実施や公共料金決済の推進に加え、イオン銀行住宅ローンの特別金利プラン告知強化等により、カードショッピング取扱高や住宅ローン残高の拡大に努めました。さらに、香港、タイ、マレーシアの上場3社を中心に、各国において継続して業容の拡大を図りました。

この結果、経常収益、経常利益、中間純利益は、それぞれ前回発表予想を上回りました。特に、中間純利益は、国内主要連結子会社2社の繰延税金資産の増加による影響等もあり、前回発表予想と大幅な差異が生じることとなりました。

なお、通期の業績見通しについては、現時点で変更はございません。

以 上